



ふっ素樹脂加工フライパンの 空焚きに注意

焦げ付かず、こびりつかず、お手入れも簡単なふっ素樹脂加工のフライパン。とても便利ですよ。ね。テフロン加工とも言いますが、テフロンはふっ素樹脂を発明したメーカーが付けた商標です。ふっ素樹脂は分子中にふっ素原子を含む合成高分子のことで、プラスチックの仲間です。摩擦性が低く、耐熱性に優れ、燃えにくい性質があり、フライパンなどの調理器具の表面加工にもってこいなんです。では、ふっ素樹脂加工フライパンを上手に使うには、どんなことに気を付けたら良いのでしょうか。

空焚き厳禁

フライパン等の加工に使われるふっ素樹脂は主に P T F E (ポリテトラフルオロエチレン) または P F A (パーフルオロアルコキシアルカン) ですが、これらの使用上限温度は 260℃です。350℃を超えると熱分解が始まり、有害な微粒子状物質やガスが発生すると言われています。空焚きをするると 5 分ほどで 350℃に達すると言われていますので、空焚きは厳禁です。しかし、通常調理時(食材が入っている時)の器具温度は 150~190℃くらいです。食用油を熱した時に煙が出始める温度が約 200℃ですから、通常の調理温度ではまったく問題はありません。

また、最近のガスコンロや IH クッキングヒーターには過熱防止機能が付いており、250℃を超えると自動的に消火するようになっています。でも油断大敵、IH クッキングヒーターは特殊な過熱方式のため、最大火力で予熱や空焚きをすると鍋底の温度が急速に上昇し、センサーが正しく温度を検知できずに過熱してしまふことがあります。空焚きは厳禁ですが、予熱や水分を飛ばすための加熱も慎むようにすると良いでしょう。もし空焚きしてしまったら、すぐに火を止め、窓を開けて空気を入れ替えてください。体に異常を感じたら医師の診察を受けて下さい。

<p>通常の調理温度 150~190℃</p>	<p>空焚き厳禁</p> <p>使用上限温度 260℃</p>	<p>熱分解 350℃~</p>
------------------------------------	---	-----------------------------

傷付けに注意

ふっ素樹脂はプラスチックの中でも柔らかい部類に入り、硬さは鉛筆硬度で B～2H くらいとされています。傷つきやすいので、金属ヘラの使用は避け、洗うときも研磨材の入ったクレンザーやたわしは使わないようにしましょう。

熱いうちに水にジュッとつけてはダメ

フライパンは熱により膨張していますが、急冷された場合、金属とふっ素樹脂の収縮の比率が違うため剥がれてしまいます。一度に剥がれるわけではありませんが、コーティングが浮き上がった状態になり、ヘラ等で擦れた時に剥がれやすくなってしまいます。

剥がれたコーティングは口に入っても大丈夫？

当センターにも、よくそのような問い合わせがあります。ふっ素樹脂はもし口に入っても、体に吸収されず、体内をそのまま通過し排出されますので問題はありません。

日常生活を豊かにするための様々な製品も、使い方を間違えるとと思わぬ事故を起こすことがあります。製品の特性をよく理解して、上手にそして安全に使うよう心掛けましょう。

【参考にした情報】

- ・「ふっ素樹脂製品取扱マニュアル」日本弗素樹脂工業会
http://www.jfia.gr.jp/publication/images/handling_manual.pdf
- ・「フッ素樹脂加工したフライパンのテスト」神奈川県県民局 暮らし県民部 消費生活課
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f370222/p440348.html#>

